

令和6年度 美里町 全国学力・学習状況調査 調査分析

【教科に関する調査結果から】

	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学
全国平均	67.7 %	63.4 %	58.1 %	52.5 %
埼玉県平均	69 %	64 %	59 %	53 %
本町平均	65 %	63 %	60 %	52 %

○よい傾向のもの ▲改善の必要があるもの⇒改善案

	小学校	中学校
国語	<p>○話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと</p> <p>○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること</p> <p>▲目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること ⇒思考ツールを活用し、分類や関係付けを行うとともに、自分の考えを表現する学習の際、まとめる時間を十分に確保する。</p>	<p>○文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること</p> <p>○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること</p> <p>▲必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること ⇒一文ではなく段落等の大きなまとまりの内容を捉えられるよう、物語文や説明文で要約の作業を行う。</p>
算数 数学	<p>○道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること</p> <p>○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること</p> <p>▲「$540 \div 0.6$」のような、除数が小数である場合の除法の計算をすること ⇒朝学習の時間を用いて、基礎・基本となる計算について、繰り返し学習を行い、定着を図る。</p>	<p>○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較すること</p> <p>○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈すること</p> <p>▲「nを整数とするとき、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す」のような、連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと ⇒定期的に復習をする必要があると考えられるため、授業等で適宜確認をする。</p>
児童生徒に対する 質問紙調査から	<p>○自己肯定感が高い。小・中学生ともに、「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、肯定的に答えている児童・生徒が多い。また、中学生になると「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して肯定的に答える生徒が増加する。</p> <p>▲携帯・スマホによるSNS・動画の視聴時間が長い。 ⇒児童の実態を把握し、学級活動等でよりよい生活について考える機会を設ける。</p>	<p>▲地域・社会に貢献したいかどうかについて、肯定的に答える生徒がやや少なかった。 ⇒総合的な学習の時間に行う、地域・社会に係る学習を工夫する。</p>

町から

今後の改善に向けて、「美里町の教育スタイル」を活用し、日々の授業改善を重点に取り組んでいく。そのために、教育委員会が訪問する「日常の授業参観」を実施して、授業者に効果的なフィードバックを行っていく。

美里町学力向上推進会議で児童・生徒の課題や実態把握を行うとともに、学力向上に係る取組を計画的に行う。また、取組に対する評価・修正を行いながら、来年度へとつなげていく。

令和6年度 美里町立美里中学校 全国学力・学習状況調査 調査分析

教科に関する調査結果から

	国語 (%)	数学 (%)
全国平均	58.1	52.5
埼玉県平均	59	53
本校平均	60	52

○よい傾向のもの

▲改善の必要があるもの⇒改善案

国語	<p>○文章と図表を結び付け、関係を把握し、内容を解釈すること。</p> <p>○表現を工夫して物語の最後の場面を書き、その効果を説明すること。</p> <p>▲話し合い中の発言について説明したものを選択すること。</p> <p>⇒文章全体の要旨を捉える力が不足している。一文ではなく段落等の大きなまとまりの内容を捉えられるよう、物語文や説明文で要約の作業（学期に1回）を行う。</p> <p>▲漢字「満ち足りた」の正答率が低かった。</p> <p>⇒文中で使われる場合は意味が分からないと答えられない。漢字練習時に熟語で練習をする意味調べや文章の中で適切な漢字を考えたり（毎授業）、問うたりする活動（単元に1回）を行う。</p>
数学	<p>○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみること。</p> <p>○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみること。</p> <p>▲連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる</p> <p>⇒2・3年次の1学期に実施される「説明しなさい」という問題である。定期的に復習を強化する必要があると考える。授業開始時の5問テスト(週1回)や定期テストの問題として扱う。(教科担当)</p> <p>▲等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる</p> <p>⇒2年次に2ページのみで取り扱っている内容であるため、理解が乏しい部分である。式の変形は他の単元でも必要となる基礎となるため、授業開始時の5問テスト(週1回)を設置し、復習の機会を設ける。(教科担当)</p>
児童生徒に対する 質問紙調査から	<p>○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に対して全国に比べ約+12、県に比べ約+10ポイント。</p> <p>○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問に対して全国に比べ約+13、県に比べ約+9.5ポイント。</p> <p>▲「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問に対して全国に比べ約-4、県に比べ約-3ポイント。</p> <p>⇒今年度から3年生の総合的な学習の時間で「住みたい町プロジェクト」を開始した。今自分の住んでいる地域に何が必要か、そのためにどんなことが自分に出来るのかを考え発表する授業を展開している。美里町の将来を考え、行動できる生徒を育成する。日々の授業では、生徒のアウトプットを促すような授業構成や発問の工夫を研究し、授業改善に取り組んでいる。</p>

学校から

- ・国語と数学に関しては、2・3学期にそれぞれの教科の▲の問題に対する対策授業を実施する。指導者を要請し、実効性のある授業を展開する。
- ・次年度、理科は CBT で実施されるため、タブレットでの学習方法や操作方法についての指導も授業で行う。
- ・自分の授業を振り返り生徒の思考を促す授業を実践するため、教員同士が授業を見合う相互授業参観を実施する。
- ・生徒の質問紙調査の▲に関しては、現在取り組んでいる「リーダーシップ講座」で学んだ力を発揮する場面を授業や学校行事で設ける。自分ができることを行おうとする意識を高め、自ら1歩目が踏み出せる生徒を育成していく。